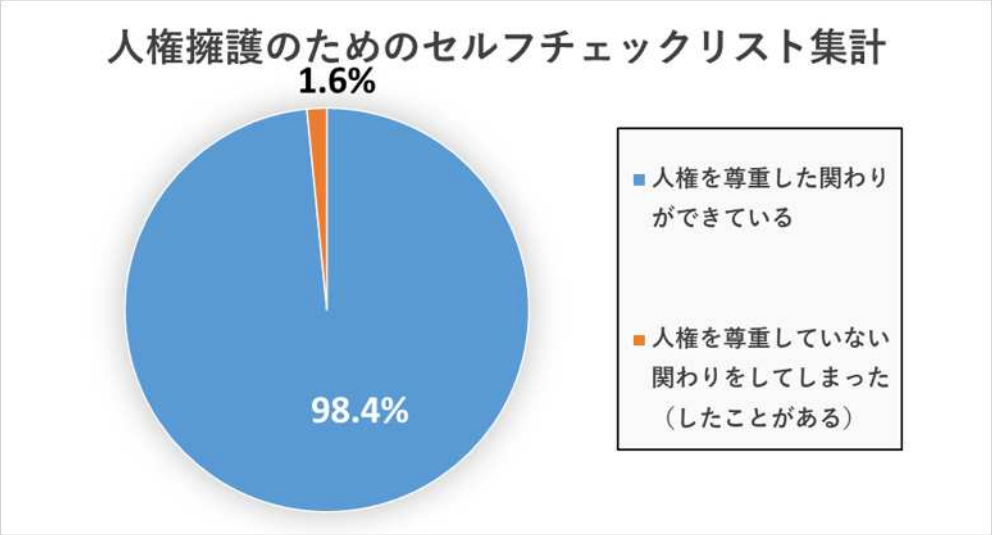
北山保育所　人権擁護のためのセルフチェックリストの実施結果（令和６年度６月実施）
全国保育士会が作成した「保育所・認定こども園における人権擁護のためのセルフチェックリスト～「子どもを尊重する保育」のために～」を使用しました。



全設問に対して 98.4%が望ましい対応をしていることが分かりました。1.6%の望ましくない対応は主に次の３項目に見られました。

・自分から訴えてトイレに行くことができるようになった子どもに対して、「おしっこ出ない」と訴えていても、トイレに行くように促す。

上記の項目につきましては、年齢によって対応は異なる面もある、おむつからの移行期であればトイレに慣れるなどの意味合いで声掛けすることもある、などの意見もありました。また、散歩や午睡前など場面によって声掛けが多くなることもあるが、普段の生活の中ではできるだけ個々の意思を尊重するようにしているなど、配慮点について職員間で意見交換・共有しました。

・寝ずに話をしている子どもに対して、外で寝るように言ったり、布団を友だちの布団と離して敷いたりする。
・寝かしつける際に、いつも同じ子どものそばにばかりつく。

上記の項目につきましては、外で寝るように言うなどの対応はしていませんが、個々の睡眠の保障のために落ち着いて寝られるような介助の仕方や、足が当たるなどトラブル回避のために布団をずらすなど対応することはありますが、眠くない子に無理やり寝かそうとするのでなく、体を休めるよう話している。眠くない子に一定時間静かにさせなくてはならない環境がどうなのか、などの課題も共有し、今後も生活時間の見直しなど検討を続けていきます。

その他にも、セルフチェックを続けることで、職員間で話題にしたり改善点を共有することができていると感じています。上記に挙げた点以外でも一人一人が意識し、気づきはその都度共有・改善できる関係を深めていきます。